

やましんかわら版は  
山形販売店と読者を結ぶ  
ミニコミ誌です

NEW

# やましんかわら版

山形新聞は9月に創刊140周年を迎えます。

発行部数 9万7,000部

毎月5日発行

新聞休刊日のため2月15日(月)付朝刊はお休みさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



かわら版編集部

〒990-2323 山形市桜田東二丁目3-8-7  
(ホームページ) <http://www.yamashinhanbai.jp/>  
(メール) [kawaraban@yamashinhanbai.jp](mailto:kawaraban@yamashinhanbai.jp)  
読者お問い合わせ窓口  
TEL.023-635-6111 (山形販売内)



阿部派一刀流では「剣心一如」を理念に掲げ、剣の修行を通じた心の修練を目指している。

今月の  
いちばん  
情報!!

## 剣を鍛え、心を磨く抜刀道 日本人に流れる武士道の精神

凛とした空気が満ちる道場で、日々繰り返される抜刀道の修練。その構えはとて厳かで、刀身の輝きもあいまって、美しく感じられました。今号では抜刀道の道場「阿部派一刀流」の道場主である抜刀道家 阿部吉宏さんに、抜刀道について、また抜刀道が目指すところをうかがって来ました。

Q、そもそも抜刀道とは。

▶抜刀道とは真剣を用いてかつての剣豪達が編み出した技・型を自分のものとし、物体を斬る武道です。畳表斬りする姿を、テレビなどで観られた方は多いのではないのでしょうか。似ている武道に居合道があり、双方とも剣術を磨き、精神面の修練することを目的としている点では通じるところがありますが、居合道は座った状態から一気に刀を抜き斬りつけるのに対し、抜刀道では刀を抜いて構えるところからはじまるという違いがあります。ところで、この武道をたしなむ私達にとって、日本刀はタイムマシンのようなもの。それは柄を握った瞬間に、何百年前の侍達と意識を通わせることができるから。そして日本人の根底に流れる武士道を身につけ、身体と精神の修練を積むのです。

Q、抜刀の目的とは。

▶抜刀道の道場は全国にあり、それぞれで少しずつ異なる理解を持っています。中には技を磨き強さを求める人もいらっしゃいます。私は精神を鍛えることこそが抜刀道の真の目的であると考えています。私にとってこの道場はひとつの小さな

な世界です。だから生徒達にもここで多くの人と交わりながら、剣を磨き精神を鍛えることの大切さを伝えていきます。己の剣を磨くことで正しき心を身につける「剣心一如」の思想こそが抜刀道の真理。物理的な強さなどというものは、精神を鍛えることで自ずと身につくものですからね。

Q、誰でも始められるものなのでしょうか。

▶抜刀道は体力をあまり必要としませんから、お子さんからご年配の方までどなたでも始めることができます。生徒の中には、将来的にリーダーになれるような人間になりたいと、通ってくださっている方もいます。考えてみれば、昔一国の主だった方がやっていた武道ですから、これを習得すればどんな場面でもたじろがず、またどんな場面をも収めてしまう人物になれるのではないのでしょうか。

私が大事にしているもののひとつに「仁(思いやり)」の心があります。日本人として最も尊ぶべきものであり、その先に武士道がある。日本人が世界に誇るべき心・武士道を復興させることが、私自身の使命であると信じています。

Q、今後、抜刀道を通じてやりたいことは。

▶インバウンド事業にも取り組みたいと考えています。日本が誇るこの武道を、広く世界の人に伝えていきたい。道場を守り、生徒達に抜刀道を伝えていくことも大切ですが、同時にこのような文化を広めることで、抜刀道をはじめ多くの古武道や、日本古来の文化の底上げになると考えています。私の道場「阿部派一刀流」はあくまで入り口に過ぎません。より深い日本文化を知ってもらいための架け橋になればと考えています。武士道、

そして日本に残る素晴らしい文化を復興し、抜刀道で私を育ててくれた社会に恩返しできれば、これほどうれしいことはありませんね。

抜刀道家 阿部吉宏さん。14歳の時に新聞で見た「兜割り」の記事に感動し将来の目標と決める。現在、阿部派一刀流を創始し、抜刀道の普及に努めている。



神棚が祀られている神聖な道場。ここでは奉納演武として、稽古が行われている。

阿部派一刀流

住所/山形市あこや町1-3-4

電話/023-625-0107

稽古時間/9:30~12:00

15:00~21:00

※21:00~23:00は要予約

